



こはら 小学校

小原小学校だより No.9
令和7年(2025年)1・2月号
いのち輝く小原っ子



<https://edu.city.kohara.lg.jp/koharaeyou/>

小原小学校のホームページもご覧ください！

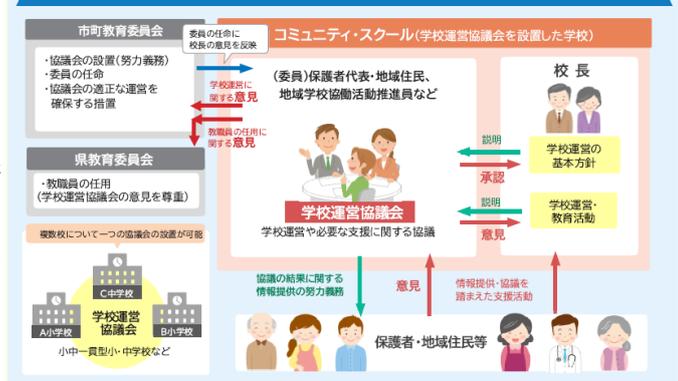
令和7年(2025年)の4月からコミュニティ・スクールとになります！

節分をむかえ少しずつ春に向かっていくのだと思っていましたが、久しぶりの大寒波到来、校庭にも積雪があり、厳しい冷え込みを感じています。コロナやインフルエンザなども心配されます。ご家庭でも健康には十分ご注意をお願いいたします。

さて小原小学校も令和7年度から現在設置している学校評議員会を廃止し、学校運営協議会を設置します。コミュニティ・スクール(以下CS)とは、学校運営協議会を設置している学校をいいます。CSでは、学校の運営および必要な支援に関して地域の方や保護者の理解を深めること、学校と地域の方や保護者との連携や協力を推進することを目的としています。

小原小学校では「農園サポーター」「たんぼのこサポーター」「本の読み聞かせ(本の森)」「登下校見守りスクールガード」「味噌づくり体験学習講師」など多くの活動にご尽力をいただいております。これらの活動を柱に保護者や地域住民の皆様と今後も力を合わせ、児童のより豊かな教育活動を進めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会を設置した学校)の仕組み



2月のおもな行事

- 3日(月)委員会活動 ふれあいウィーク(～7日)
- 5日(水)全校集会・給食感謝集会
- 6日(木)信楽ブロック特支交流会(信楽中)
- 7日(金)1・2年三校集合学習
PTA学級委員選挙開票 19:00～
- 10日(月)小原幸せ委員会人権劇 8:20～
- 12日(水)コハリンピック
- 14日(金)移動図書館 元気アップ大作戦(～20日)
6年三校集合学習(SC心理授業)
- 17日(月)クラブ活動(クラブ見学)
- 19日(水)校内人権の日 学校評議員会 18:30～
- 20日(木)読み聞かせ
- 21日(金)5年フーティングスクール(～22日)
- 25日(火)5年振替休日
- 27日(木)3年福祉体験学習(車椅子体験)
- 28日(金)学習参観 すこやか委員会
PTA新三役決定会議 19:00～

3月のおもな行事

- 1日(土)PTA第2回環境整備作業 9:00～
- 3日(月)委員会活動
- 5日(水)通学団集会
- 7日(金)なかまのつどい
- 10日(月)クラブ活動
- 13日(木)読み聞かせ(本の森)
- 14日(金)移動図書館
- 19日(水)卒業式(給食なし)
- 21日(金)全校5校時下校
PTA三役新旧引継会 19:00～
- 24日(月)修了式・大掃除(給食なし)
PTA会計監査 教育後援会会計監査
- 25日(火)学年末・学年始休業(～4月7日)

4月のおもな行事

- 8日(火)新任式・始業式
入学式準備(給食なし) 11:40 下校
- 9日(水)入学式(1年生以外給食あり) 13:30 下校

★2月28日(金)学習参観・すこやか委員会

2月28日(金)は授業参観の後、すこやか委員会を開きます。子どもたちの健康に関する大切な内容となっています。ぜひご参会いただきますようお願いいたします。

インターネットのコラムから『命について考える』水木しげる記念館…

鳥取県境港市に水木しげる記念館があります。ゲゲゲの鬼太郎を書いた人ですね。この記念館にはゲゲゲの鬼太郎をはじめとする数々の作品が展示されており水木さんが生涯をかけて描いた妖怪たちの世界をじっくりと味わうことができます。ここを訪れたある方のコラムです。

・・・しかし、衝撃を受けたのは水木さんの「死生観」です。

水木さんの作風の背後には、若き日に体験した壮絶な第二次世界大戦の記憶、戦場で敵に銃で撃たれ海に飛び込んだこと、左腕を失う重傷を負ったこと、マラリアによって生死の境をさまよったことなど、「死」というものを身近に感じざるを得なかった日々があったことが展示されています。

戦場で日々仲間が失われ、自分自身も生き残れるかわからない状況に追い込まれたことで、どんな理屈も通じない「どうしようもなさ」を感じたといいます。ただ、そこから死を必要以上に恐れず、「生も死も自然の流れの中にあるものだ」と考えるようになったそうです。

水木さんの作品に登場する妖怪は、この世とあの世の境界を曖昧にさせる存在として描かれていますが、それは死を遠ざけるものではなく、むしろ身近に受け止めるものだったようです。水木さんは戦場で、意識もうろうとする中、妖怪の「ぬりかべ」を見たそうです。そんな経験も生かされているのでしょう。

水木さんは自身の人生を「屁のような人生」と例えました。大それたことは考えず、肩の力を抜いて生きていくほうが気楽なのだという、独特のユーモアと達観がそこには感じられます。戦争によってもたらされた過酷な体験を経てもなお、笑いを忘れず、深刻になりすぎず、日々を味わうように生きることが大切だということが伝わってきます。

そんな水木しげるさんのゆるやかで寛容な死生観は私たちに「生きること」の本質をもう一度見つめなおす機会を与えてくれるように思えました。

人の生き様から自分の生き様を見つめなおす。そんなお話だったので、紹介させていただきました。小原から高速を使って片道4時間半、簡単には行けないけれど、いつか行ってみたい場所になりました。

12月1月の学校の様子から



12月10日 交流給食



12月13日 人権集会の様子



1月20日 5年みそづくり体験活動



1月21日 4年命の学習



1月31日 親子人権学習会 健康的な生活を送るために野菜は一日何グラム食べる？